

言葉の力

校長 関野耕一

残暑厳しい毎日が続いていますが、2学期が始まりました。夏休み中、パリオリンピックや様々なメディアから感じたことがあります。それは、“言葉の力”です。出場選手のインタビューの一言一言、芸能人や政治家が発した一言一言の重みを感じ、時には感動し勇気や希望を抱き、時には残念な感情を抱きました。

言葉は思いがけない力を持っています。使い次第で自分や周りの人々に大きな影響を与えます。優しい言葉を聞けば気持ちが穏やかになり、非難や悪口を聞けば、たとえ自分に関係がなかったとしても、嫌な気持ちになります。言葉は良くも悪くも人間の心理に影響を与えるのです。

日常生活で何気なく口にしていて言葉にも力が宿っていると分かれば、使い方に気を付けたくくなります。日々、ポジティブな言葉を使っていれば物事も良い方向に進みやすいですが、ネガティブなことばかり言っていると、悪い方向に進んでしまうことがあります。例えば、気持ちが沈んでいる時に「自分はダメだ」「何をしてもうまくいかない」などと口にしてしまうと、余計に落ち込みやすくなります。ネガティブな気持ちの時でも、「何とかなる」「きっと大丈夫」などポジティブな言葉を口にしていれば、元気が出てきやすくなるでしょう。

人はコミュニケーションを取る時に、様々な言葉を声や文にします。言葉を特別な時だけでなく、日常的に意識することで、良い方向に進むきっかけを与えます。例えば、何かをしなければならないときに「面倒くさいなあ」と言うよりも、「早く終わらせてスッキリしよう」と言ったほうが、前向きな気持ちで取り組みます。日常生活の様々なシーンでポジティブな言葉を使うよう心掛ければ、自然と気持ちが明るくなります。周囲をネガティブな気持ちにさせることもなくなり、互いに良い気分で過ごせるはずです。

また、人の悪口・陰口・愚痴が多く他人への文句ばかり言っている人の周囲には、自然と似た人間が集まります。悪口を言うと、いったんはスッキリした気持ちになるかもしれませんが、良心がある人ほど後から「自己嫌悪」に陥ります。他人に対するネガティブな気持ちは、結局は自分に返ってきってしまうのです。

もし、うっかり否定的な言葉を言ってしまった場合は、「それは嘘」と言って取り消せます。自信をなくす言葉を使わない癖をつければ、自己肯定感を高めやすくなります。実際、オリンピックでも敗者が直後のインタビューでは、今までの努力を否定的に捉えていたシーンもありましたが、少し時間が経つとみんなポジティブな言葉を口にしていました。

前向きな言葉を使うことを心掛けたり、人の良い部分を褒めたりなど、お子さんとの関係においても家族みんなで率先して実践することで、ポジティブな姿勢が育つのではないのでしょうか。南小学校でも職員一同、学校教育目標「学ぶ子」「やさしい子」「たくましい子」に向けてより一層ポジティブな姿勢で精進していきます。2学期もよろしくお願いします。



●地震等への対応について

8月8日の日向灘での地震を受けて、初めての「南海トラフ地震臨時情報『巨大地震注意』」が発表されました。今のところ大きな地震はありませんが、いつ起きてもおかしくないという心構えで備えておくことが必要です。本校の危機管理マニュアルでは、以下のような対応を想定しています。

臨時情報（調査中）が発表された場合

特別な防災対応はせず、通常通りの学校生活を続けます。

臨時情報（巨大地震注意・巨大地震警戒）が発表された場合

※今回の場合も含まれます

「調査中」同様に特別な防災対応はしませんが、地震が起きた際の行動の確認、避難経路の確認等、地震発生時に備えて、各学級で指導を行った上で、通常の学校生活を行います。

（※ただし、マグニチュードや震源等の状況によっては、マチコミで連絡した上で、一斉下校や児童引き渡し等の対応をとることがあります。）

突発地震が発生した場合

登下校中であれば、学校か家のどちらか近い方へ避難します。学校にいる児童については、安全を確認し、マチコミで連絡した上で一斉下校や児童引き渡し等の対応をとります。

ご家庭においても、緊急時の行動や家族の避難場所、児童引き渡し人等について、改めて確認していただくようお願いいたします。

